

2024年度「就職先企業等に対する目白大学短期大学部卒業生の学習成果調査」 結果報告

目白大学短期大学部

【1】調査の概要

1. 目的

本学卒業生の学生時代の学習効果が、就職先等で生かされているかを検証し、在学生への教育活動・就職支援に反映させる。

2. 調査対象

目白大学短期大学部 2023年3月卒業生(ビジネス社会学科、製菓学科、歯科衛生学科)の就職先企業および団体 128件

3. 実施時期

調査期間： 2024年10月1日(火) 発送～2024年10月23日(水)

4. 調査方法

調査用紙を企業・団体に郵送し、Google フォームでのアンケート回答にて回収

5. 回答状況について

【回答数】 46件

【回答率】 35.9%

6. 調査項目

問1. 本学の卒業生は職場の環境に調和していますか。

問2. 本学の卒業生は積極的に仕事に取り組んでいますか。

問3. 採用いただいた卒業生は、本学で学んだ以下の点を業務上活かしていますか。

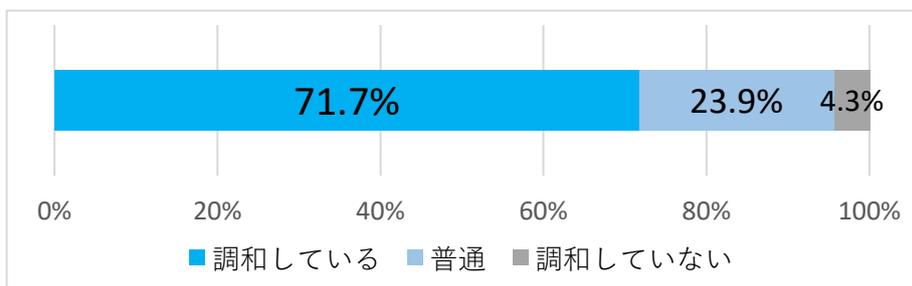
- ① 社会人としての基礎的な知識・教養
- ② 粘り強く、挑戦する力
- ③ 地域や社会に貢献する意識
- ④ 課題解決に向けて学び続ける力
- ⑤ 情報リテラシーを活用する力
- ⑥ 計画性・スケジュール管理能力
- ⑦ 得た知識・スキルを応用する力
- ⑧ 他者と協力する力
- ⑨ 自己を表現する力
- ⑩ コミュニケーション能力

問4. 今後本学の教育についてさらに充実が必要と思われることを、ご入力ください

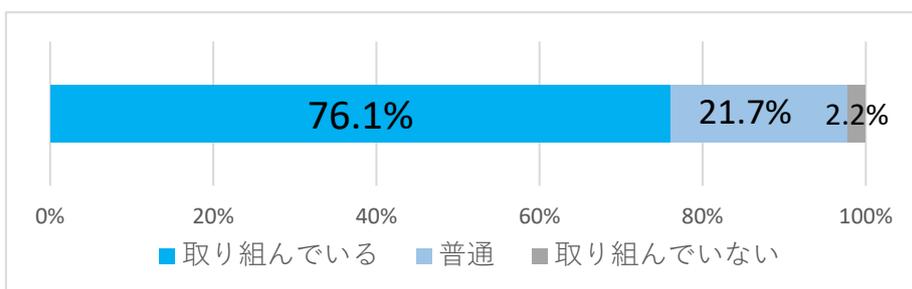
問5. 採用選考時に、成績証明書・健康診断書・卒業見込証明書以外で大学が提供すれば、採用判断に有用となり得る情報や証明書があれば、ご入力ください。

【2】調査結果

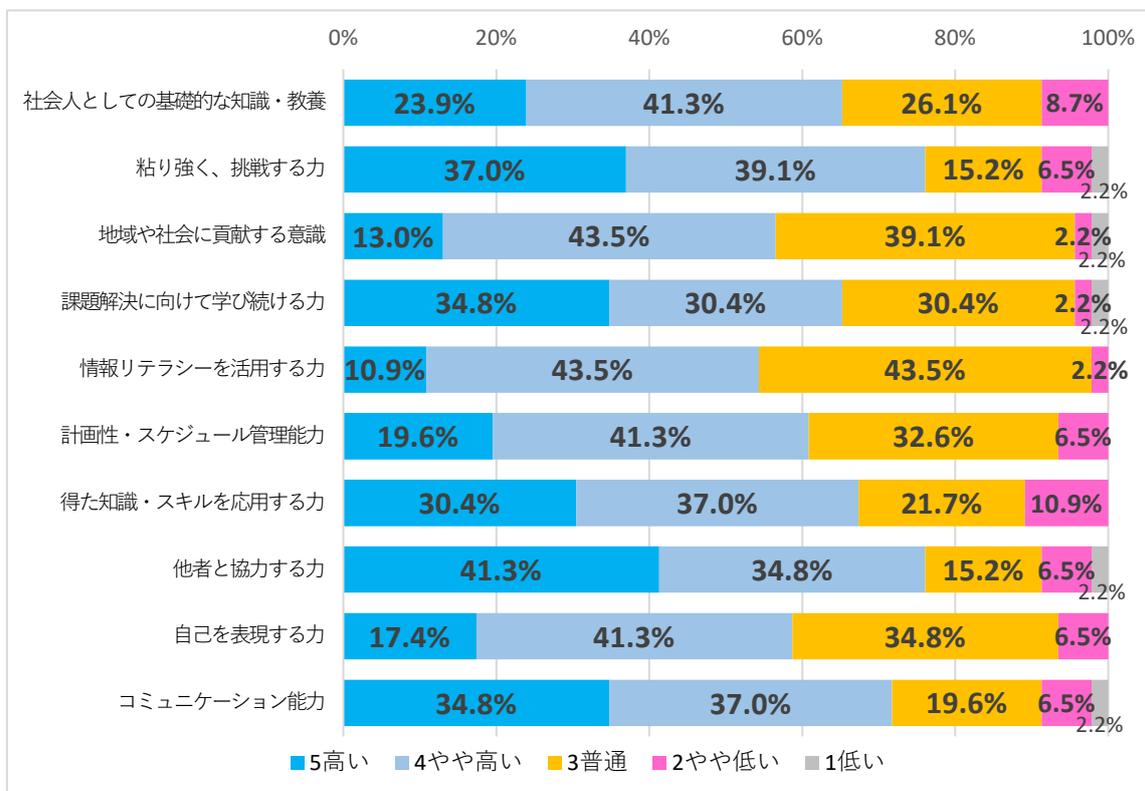
問1. 本学の卒業生は職場の環境に調和していますか。



問2. 本学の卒業生は積極的に仕事に取り組んでいますか。



問3. 採用いただいた卒業生は、本学で学んだ以下の点を業務上活かしていますか。



※問4, 5は自由記述のため省略

【3】調査結果の分析と改善点

(1) 本学卒業生の職場の環境への調和と取り組み姿勢について

「本学卒業生は職場の環境に調和している」との回答が71.7%であったが、「職場の環境に調和していない」との回答が4.3%（2件）にみられた。また、「本学の卒業生は積極的に仕事に取り組んでいる」との回答は76.1%であったが、「積極的に仕事に取り組んでいない」との回答が2.2%（1件）にみられた。

「積極的に仕事に取り組んでいない」との回答1件と「職場の環境に調和していない」との回答2件のうちの1件は同一の卒業生の評価であり、業務上活かしている力や能力の評価も総じて低かった。

本学卒業生の職場の環境への調和と取り組み姿勢は概ね良好と思われるが、在学中から授業に積極的に取り組み、さまざまな力や能力を身につけることにより、卒業後の職場の環境への調和と積極的な取り組み姿勢にもつながると考える。より多くの学生が力や能力を身につけて社会に羽ばたけるよう、在学中の授業への取り組み姿勢の向上のための指導及び支援が必要である。

(2) 評価の高い力・能力

本調査結果から読み取れる評価の高い力・能力としては、「粘り強く、挑戦する力」「他者と協力する力」「コミュニケーション能力」が挙げられる。短期大学部での学習において、基礎教育科目及び専門教育科目の演習・実習等を通して、これらの力が身についたと思われる。しかし、それらの全般的に高評価の項目についても低評価の卒業生が存在する。

これらの力を持つものが、力を強みとしてさらに向上させるとともに、これらの力を全ての学生が身につけられるよう、初年次から「ベーシックセミナー」「キャリアデザイン」等の基礎教育科目の内容の充実を図るとともに、専門教育科目においてもさらに能力を高める機会を設ける必要がある。

(3) 改善が求められる力・能力

本調査結果において、「高い（5と4の合計）」の割合が最も低かったのは、前年度に続き、「情報リテラシーを活用する力」であった。次いで「地域や社会に貢献する意識」「自己を表現する力」が低かった。

また、「低い（2と1の合計）」の回答が最も多かったのは、「得た知識・スキルを応用する力」であった。

2024年3月卒業生は、製菓学科及びビジネス社会学科は2022年度入学生、歯科衛生学科は2021年度入学生が主である。2020年度と2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響により高等学校在学時、もしくは入学後に遠隔授業を経験し、Webの活用は十分に経験したと思われるが、多くの情報の中から必要なものを選択し、活用する力を身につける機会や自己を表現する機会は不十分であったと思われる。

例年改善を求められている情報リテラシーの能力引き上げを図るため、ビジネス社会学科では、学生の就職先として一般企業が多いことから、前年度よりBYOD（Bring your own device）を必須とした。また、製菓学科および歯科衛生学科ではBYODを推奨としている。情報関連授業や多くの科目で活用することで、教育効果の向上に期待しているところである。

「今後、本学の教育についてさらに充実が必要と思われること」においても、書い

であること以外を読み取る力、コミュニケーション能力、社会貢献の意識を高める必要性、社会人としての基礎的なマナーを全ての学生が身につけて欲しいとの指摘があった。学んだ知識を社会生活に応用するためには、発信者と受信者の双方が高いコミュニケーション能力を持つことが重要である。今後、対面授業において対話の機会を増やすだけでなく、実際に応用できるスキルが習得できるよう支援する必要がある。また、社会人としての基礎的なマナーを身につけることは全ての分野において必須である。全ての学生が卒業までに社会人としての基礎的なマナーを身につけ、学んだ力と能力を社会で発揮できるようにするためには、具体的なスキルを指導する科目やキャリア支援の担当者だけに委ねるのではなく、全教職員が学生の目標達成に向けた指導及び支援を行う必要がある。

以上